【　戦　評　】

　素晴らしいグランドコンディション、大声援を送る両校の応援団を中心に多くの観衆が集まり、決勝戦にふさわしい舞台が用意された中、入間向陽のキックオフでゲームが開始される。向陽は4-4-2の布陣で、⑪内田、⑭深谷のスピードを生かした展開が目立つ。一方の久喜は、4-2-3-1の布陣で⑩大島を中心にボールを動かしてゲームを支配する。

　前半、久喜はＳＨの⑦八城、⑨細見が高い位置を取り、あけたスペースにＳＢ②横地、⑤森田が走り込み、クロスを上げる機会が増えるが、向陽ＤＦ陣も⑤粕谷を中心に跳ね返し、ルーズボールに対してもＭＦ⑧大屋、⑩佐藤を中心に拾い、前線へと展開する。

久喜がゲームを支配し始めた15分、久喜が左サイドからの⑤森田のＦＫのこぼれ球を⑥野口が押し込み先制点を挙げる。これに対して、向陽はキックオフから攻めたて、ゴール前でのシュートを3本連続で放つが、久喜のＤＦ陣、ＧＫに阻まれ得点を奪えない。この攻撃により息を吹き返した向陽は、20分にサイドからのパス交換から最後は⑨志茂が思い切りよいミドルシュートを放ち、試合を振り出しに戻す。そのまま前半終了かと思われた34分、久喜が左サイドへ展開すると⑨細見が粘り、最後は⑩大島へマイナス気味のパス。冷静にコントロールした大島が、逆サイドネットを狙い澄ました見事なシュートを放ち、向陽を突き放してハーフタイムを迎える。

　後半も、ボールは久喜が支配しているものの、互いに決定機を掴めずにゲームが進む。リズムを変えたい向陽は、45分過ぎから⑪内田を中盤に下げ、⑭深谷のワントップにして久喜の攻撃を抑えつつ、⑩佐藤のキープ力を生かした攻撃に活路を見い出そうとする。向陽ペースになりかけるも、決定打とはならず、終盤にはＤＦ⑤粕谷を前線に上げるパワープレーも行い同点を目指した。このまま試合終了かと思われた68分、右サイドで⑩佐藤のドリブル突破で得たＦＫを⑧大屋が直接決め、2対2の同点に追いつき後半が終了する。

　延長戦に入り、互いに死力を尽くす展開となる中で、72分、久喜が右サイドで⑧礒﨑が粘り、ボールを中へ跳ね返す。相手よりも早く反応した⑰萩野が蹴りこみ、久喜が勝ち越す。79分には向陽⑪内田が相手ＤＦの背後を取り、ＧＫと1対1になるがボールは枠をとらえることができず、試合終了となった。

　両チームのフェアでタフなプレーに称賛を送るとともに、関東大会での活躍に期待したい。